

INDEX

- ① 巻頭言
- ② 法人たすきリレー
- ④ あすかの保育園40周年

- ⑥ 法人主任研修会
- ⑧ 年の初めにあたって
- ⑩ 児童施設より
- ⑫ 高齢者施設より

- ⑬ 極楽坊あすかこども園建設進捗状況
- ⑭ 表彰受賞者一覧
- ⑯ 役員会報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

「希望の年に」

理事長 辻村 泰範

今年卯年。賀状にも兎のイラスト

が跳ねていました。身をくるめてウサギの姿はなんとも可愛い、人の気持ちを和ませてくれます。勢いよくウサギが跳躍する姿もコロナ等でストレスが溜まった世間の鬱積した状態から一気に抜け出したい気分を象徴しています。ところで、ウサギが勢いよく跳ねている姿は普段はほとんど見ることはありません。あれは天敵に襲われて必死で逃れようとする時の姿なのです。我々もコロナなどの手強い感染症からは一気に逃れたいものです。普段のウサギの運動を見て気づくのは、彼らはチヨコチヨコと動き回りピョンピョンと小さく飛び跳ねることです。そして何より特徴的なのは後にさがれないのです。人間も後ずさりするのは苦手ですが、一気に飛び跳ねなくてもチヨコチヨコと確実に前に進むウサギも悪く

ありません。

暦では令和五年、今年の干支（エト）は癸（ミズノト）卯（ウ）。「癸」の字は木火土金水の水を示しています。木火土金水の五字（五行）はそれぞれ兄（エ）と弟（ト）に分かれていますので、今年はその弟の方なので水（ミズ）の弟（ト）と読むわけです。癸は大地を潤す水を意味していると説かれています。単純に考えれば癸は甲乙丙丁と数を数える読み方の十番目でキと読みます。「卯」は十二支の四番目ですが、ボウと読みます。門が開かれたさま、草木が伸びて地面を覆うさまなどと解されています。癸は十干の最後、これから伸びようとする草木を潤す水、卯は草木が生い茂る様だとすればなんと縁起の良い巡り合わせではないですか。癸卯は音読みではキボウ。希望に通ずる良い年となりますように。



「はじめから今まで～そして、これから」

元 法人評議員
敬老の日の巻寿司作り・喫茶ボランティア 宮本 しげ子

梅寿荘創立50周年おめでとうございます

「エレベートバスや自動水栓の洗面所を備えた老人ホームができたから、落成式前だけど、ちよつと見学する?」と、いこま保育園長故中山文夫先生からのお誘い。子どもが2年間お世話になり、私も愛護会(保護者会)のお役を仰せつかっていた関係、事業団の他施設の行事にもお招き頂き母子ともにお世話になった園生活を終え、子どもは小学校に入っていました。早速友人を伴い見学したのです。名にし負う立派な施設に感心したものの、自分にとってはやっと集団生活に慣れ学童期に入った子どもの育成を模索していた時でもあり、自分の老後など遠い遠い先のことだとあまり実感は沸きませんでした。しかし、末にはこんな所でお世話になれるのかなと淡い期待もありました。

ピロティで行われた落成式には生駒市(前年に町から市になった)初の老人ホームの落成を祝う来賓、関係者で所狭しでした。式典を終え、乳児保育園へと下り、振り返ると屋上に万国旗が翻る白亜の殿堂が聳え立っていたのが今も鮮明に思い出されます。

その年の9月15日の敬老の日のこと、入荘者に敬老の日のご馳走をアンケートされたところ「巻寿司とおぜんざい」が圧倒的多数。職員手薄とのことで拙宅での巻寿司作りを依頼され、近所の卒園児の母親数名が我が家に集い、届けられた(宮本隆雄氏=たかお兄ちゃんが運び役)材料で巻寿司作り。出来上がりを知らせると受け取りに来られる。3年ほど続いたでしょうか。そのうち需要も多くなり、敬老の日にはこちらから施設へ出向いての巻寿司作りとなりました。

昭和51年にはピロティに市内を見晴るかすガラス張りの喫茶コーナーが誕生。当時老人施設での喫茶コーナーなど稀な設備だときいておりました。私共巻寿司作りメンバーも金曜日にはおぜんざいメニューで参加。拙宅で小豆を煮、白玉粉を持参、施設の大鍋で砂糖を加え、湯煎で白玉団子を作り、大鍋に加えて



出来上がり。お年寄りたちは居室から喫茶コーナーまで出かけて来ることを大きな楽しみと
していたようです。お年寄り同士の会話もさることながら私共との話も楽しんでくれました。
こちらもお年寄りから学ぶ事も多く、よい触れ合いの場となっていました。また其処では喫茶
閉店後、当時としては先駆的な市民活動であるカウンセリングを加味した電話相談事業の設立
準備委員会や勉強会を中山文夫先生中心にさせて頂いておりました。

当時の生駒市は高度成長期の波に乗り大阪や近郊都市からの移住者、俗に新住民と呼ばれ
る人が、旧来の地元の習慣に捉われず、時代に先駆けて物事を考え出し実行に移すグループを
芽生えさせていました。その中に私共の活動もあったのです。当時世間では「ボランティアって、
何ですか」と言われていたのですから、私共の梅寿荘での活動が生駒市に於けるボランティア
の草分けと言っても過言ではありません。

平成9年には法人事業団の評議委員を拝命(令和4年迄)し、役員会の都度、施設の現状
などを見聞させて頂くようになりました。平成15年には現在の場所に拡く充実した福祉の
拠点としての殿堂が再建され、利用者のニーズやプライバシーが守られ快適な日々が過ごせる
よう配慮されてきました。時に応じての設備等の改善充実や職員方の利用者への行き届いた
対応などの根底には、創設者故辻村泰圓師の「いつまでも あなたらしさを」との介護福祉
の理念が受け継がれ息づいていることが伺われます。師は生前から「揺り籠から墓場まで」と
幼児から高齢者への充実した福祉を希求しておられたのです。

時の流れとともに当初からの仲間も高齢化し、転居や既に泉下の人となられたりで当時
を語り合う人も殆ど居なくなりました。しかし、世代交代しながら引き継がれたボランティアは、
今なお各分野で活躍されています。大変喜ばしく頼もしく思っています。

少子・高齢化の進む現代、より求められる擁護・介護事業を担われる理事長様はじめ職員
の皆様の益々のご健勝を祈念し、時世とともにより多様化するニーズにも応えながらメタ
モルフォーゼし、更に充実発展されますよう切に希っております。半世紀に及ぶご縁を賜り、
浅学非才、世間知らずの私をも育て下さったご恩に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

我が人生幻冬期、振り返ることのみ多くなった今、行く末を「自分らしさ」を保ちながら、
今しばし、恩送りができればと己を励ましているところです。



梅寿荘への登り坂を下って



乳児保育園園庭の休憩テーブルで



創立40周年を迎えて

あすかの保育園
創立40周年

あすかの保育園 園長
小林 美香

昭和57年4月に開園したあすかの保育園は今年度創立40年目を迎え、先日令和4年12月17日に生駒市北コミュニティーセンター小ホールにて周年記念行事を行いました。



コロナ禍の為2部に分けて、例年園で子ども達が観劇している「劇団風の子」の公演を親子で楽しんでもらいました。「タックンと折り紙おじさん」のお話ではタックンを操るおじさんの腹話術に不思議そうな表情の子ども達。「てぶくろをかいに」のお話では親子でほっこり心温まり、折り紙を使った巧みな演出で楽しいひと時を過ごすことができました。

2部の方には、生駒市長小紫雅史様をはじめ、生駒市教育こども部部長、生駒市保育会会長、歴代の愛護会長や法人の役員、施設長など来賓の方々も多数ご出席いただき、皆様から心温まるお言葉を頂戴しました。

また小ホールの前では10日間ほど、普段園で取り組んでいる「生活画」を展示しました。例年は園内で描画展として行っていますが、今回は記念行事に合わせて行ったことで、保護者の方だけでなく、卒園児や地域の方々にも見ていただくことができ、園での様子や取り組みを知ってもらえる良い機会になりました。卒園児の保護者からは「懐かしかった」とお声をかけていただくこともあり嬉しかったです。

そして同時期に法人に奈良のマリオットホテルより社会貢献事業の一つとして植樹の話があり、「ハナミズキ」の苗木を年長児と一緒に植えていただきました。ちょうど当園の周年記念にもなり、春に綺麗な薄ピンクの花が咲くのを楽しみにしています。



劇団風の子「タックンと折り紙おじさん」



小ホール前に描画等の展示



理事長挨拶



小紫市長祝辞

この40年を振り返ったとき、理事長の挨拶でもあったようにたくさんの方々のお力添えのおかげで開園した保育園であり、その後周りの住宅開発や地域、社会のニーズの変化に応えながら保育を行ってこれたのは、地域の方々をはじめ多くの方々のお力添えがあったからこそだと改めて感謝申し上げます。

市長がご祝辞の中でも述べられたのですが、これから少子化の時代がやってきます。「子育てに優しい生駒市」でこれからも保育園としての役目をしっかり果たすために、次の世代に活躍する子ども達の夢をしっかり育み、そして園庭の桜やハナミズキのように綺麗な花が咲かせられるように、土台作りができるような保育になるよう努力を重ねていきたいと思っております。そして更に多様化する保育園のニーズにも合わせていけるよう、「今できること」「今やらなければならないこと」「40年間歩み続けてきたこと」を今一度しっかり考え歩み続けていきたいと思っております。

これからも「あすかのつ子」達が元気いっぱい笑顔で過ごし、そして保護者や地域の方々の思いをしっかりと取り寄り添っていただける保育園であり続けることができるよう頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



「岩本登美子前園長
おめでとうおめでとう」



園から花束贈呈と理事長祝辞

岩本登美子前園長が、長年福祉にご尽力された功績が認められ令和4年秋の叙勲に於いて「瑞宝単光章」の荣誉に輝かれました。

あすかの保育園が開園したときにいこま乳児院より異動し、子ども達の保育に携わってこられ、平成20年4月から平成30年3月までは園長としてご活躍されました。このことは同じ職に立つものとして大変喜ばしいことで、私たちの励みにもなりました。

今回の40周年記念行事の中で、皆様方と一緒に祝いさせていただきました。

令和4年度 法人主任研修会



“ハラスメントについて正しく学び、働きやすい職場作りを目指す”

法人研修委員 やすらぎの杜 延寿
大平 達也

令和4年度の法人主任研修会は、“ハラスメントについて正しく学び、働きやすい職場作りを目指す”をテーマに、ハラスメントについて正しく知るとともに、働きやすい職場を作るために日常業務の中でどのように実践していくか、どのような点を意識するかということを考え、働きがいのある職場を実現するための役割を学ぶために、9月より三日間にわたり開催されました。

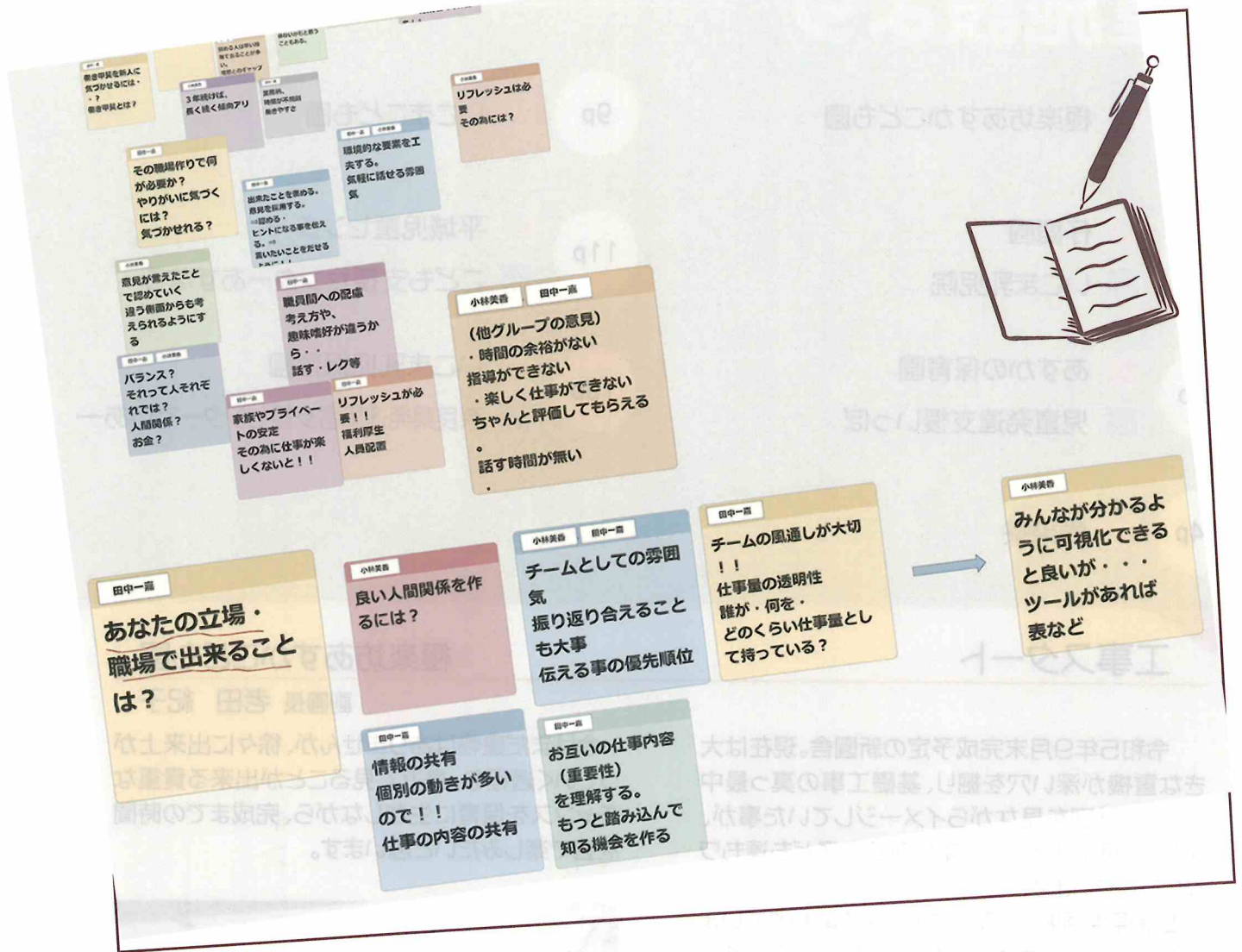
9月に実施した**第1回目**の研修では特定社会保険労務士の山田真由子先生より「ハラスメント防止研修 働きやすい職場作りのために」というテーマで、ハラスメントの定義や種類、なぜハラスメントの防止が必要なのか、もちろんハラスメントに対する法律の強化もありますが、人材定着の悪化、レピュテーションリスク(風評リスク)に繋がることや、相手との関係性や場面、相手の心理状況によって流動的にハラスメントは起きてしまう為、**風通しの良い職場作り**が必要である、という内容でした。

10月に実施した**2回目**の研修では、愛染寮の臨床心理士 緒方さんよりアンガーマネジメントの講義があり、より良い職場環境にする為にアンガーマネジメントを職場の指導に活かすという目的で、自分の怒りの感情に気づき、その感情が大きくなるまえに対処できるようになること、自分の考えを落ち着いて相手に伝えること、周囲とより良い関係を築けるようになることをワークを交えて学びました。

午後からは、極楽坊あすかこども園 辻村園長より「働きやすい職場」とは。というテーマで、働きやすさだけを高めるだけではなく、「働きやすさ」と「やりがい」を高める事で「働きがい」につながり、**生き生きとした職場を目指す**ということ。子育てと仕事の両立をする為の働きやすい職場を作る制度として、育児休業制度の説明や、人材育成の手法としてコーチングについて学びました。

3回目では、今回の研修で学んだ内容を踏まえて「ワールドカフェ」という方式で、参加者がリラックスしながら意見交換が出来るよう和やかな雰囲気を作り、様々な意見を共有することが狙いでしたが、11月に予定していた3回目の研修は、法人内の事業所で感染症対応に追われていた時期であった為に延期、12月にオンラインでの開催とさせて頂き、急遽の変更で担当の研修委員も試行錯誤しながら当日を迎える事となりました。オンラインで進行するため事前に打ち合わせも重ねていたのですが、当日には画面共有が出来なかったり、スムーズに繋がらなかったりと…予定通りに進行できなかった点が多々ありました。結果的にはグループで意見交換も出来て、オンラインでしたが和やかな雰囲気？で様々な意見を共有できたと思います。

今回の研修では、ハラスメントの防止という視点から、働きやすい職場作りの必要性、その為に主任として具体的にどう実践していくか、という内容だったので、私自身も学ぶことがたくさんありました。今回受講された方とともに、「働きがいのある職場」を目指していきたいと思えます。



法人主任研修を受けて

愛染寮児童指導員 玉田 周平

全三回にわたる法人主任研修を受講致しました。テーマは「ハラスメントについて正しく学び、“働きやすい職場”づくりを目指す。」です。

初回は外部講師からハラスメントとは具体的にどういうことを指すのか、セクハラ・パワハラなどどれぐらいの種類があるのかなど教えていただきました。昨今たくさんニュースなどに取り上げられて耳にする機会が多くなり、ある程度の知識はあったものの、改めて新たな発見や驚きがたくさんありました。例えば、私は子ども達へよく「人が嫌な気持ちになることはしてはいけない」と注意や指導をする機会がありますが、ハラスメントをしないための基本は同じで、私自身も気をつけなければいけないと痛感しました。

第二回は「働きやすい職場」づくりをするためのメンタルヘルスや「働きがいのある職場」とはどういう職場なのかを学びつつ自分たちでも考え、**第三回**ではその考えた働きがいのある職場にしていくためには何が出来るのか、何をしないといけないのかをWEBでワールドカフェ方式を使って意見を出し合い、話し合いました。それを通して、職場は働きやすいだけでなく、やりがいのある職場であることも重要であるということに思い至りました。

そのためにまず、私に出来ることは何なのか。職員一人一人と真摯に向き合い、その人がどんな価値観をもっているのか、仕事に何を求めているのかなど、しっかりと相手を知ろうとすることから始めなければいけないということです。職場環境を改善し、働きやすい職場にしていくためには個人で出来ることもさることながら、職場のみんなと共に改善していこうという考えと行動がとても重要だと思いました。

この研修を受けたからといって主任業務がすぐに出来るわけではありませんが、今後もさらに知識を増やし、経験を積んで、みんなから頼られる主任を目指して今後も励んで行きます。

児童施設より

8p

■ 極楽坊あすかこども園

10p

■ 仔鹿園

■ いこま乳児院

12p

■ あすかの保育園

■ 児童発達支援いっぽ

14p

■ 愛染寮

9p

■ いこまこども園

11p

■ 平城児童センター

■ こども支援センターあすなろ

13p

■ いこま乳児保育園

■ 奈良県発達障害支援センターでいあー

工事スタート

令和5年9月末完成予定の新園舎。現在は大きな重機が深い穴を掘り、基礎工事の真っ最中です。設計図を見ながらイメージしていた事が、少しずつ形になっていく事に私達も子ども達もワクワクしています。

工事現場周囲は、高いフェンスで覆われていますが、その一部は透明になっていて、通行する人達も、現場の様子を見ることが出来るようになっています。工事が進むにつれ、登降園時に立ち止まって覗く姿や、警備員の方に質問する姿もよく見られるようになりました。こども園からも、高い重機の先だけが見え上下左右に動く様子に、釘付けになっている子ども達もいます。お散歩を兼ねて、みんなで見学にも行きました。見たこともない大きな重機が、大きな音と共に動く姿を間近に見て、圧倒された様子で見入っていました。



極楽坊あすかこども園

副園長 老田 紀子

今はまだ建物はありませんが、徐々に出来上がっていく過程を、身近で見ることが出来る貴重なチャンスを保育に生かしながら、完成までの時間を皆で楽しみたいと思います。



年の初めにあたって

子どもたちが安心して笑顔で過ごせるように

いこまこども園

保育教諭 杉本 由美恵

今、世間では保育者の虐待の報道をよく目にし、保育者の子どもへの関わりについてとても注目されていると感じます。保護者の方に安心してお子さんを預けていただけるように、保育教諭の私たちが子ども一人一人の思いに寄り添い関わることは、とても重要で大事にしなければならないことです。そのような基本的で当たり前なことを本当にできているのか、それぞれが自分の子どもへの関わり方を振り返って子どもにとって良い関わりとは何なのか今改めて考えたいと思いました。

日々の保育の中で丁寧な関わりを心掛けてはいますが、一つ一つの場面を本当に子どもの気持ちに寄り添った関わりはできているのか振り返ってみると、言葉の伝え方や肯定的な関わりなどもっと意識的に改善していく必要があると感じました。

コロナ禍の今の時代では、マスクで表情が見えない分、他のところで努力をする必要があります。肯定的で丁寧な関わり、笑顔、声のトーン、子どもへの寄り添い方、保護者への話し方、肯定的に伝えるためにはどのような言葉がけが相応しいのか。普段から常に意識して取り組んでいくことが大切なことだと感じます。そのような関わりをするためには自分自身が心身共に健康でなければなりません。自分に余裕が持てなければ肯定的な関わりは難しいものです。また、職員同士が声をかけ合い、お互い助け合うことがよりよい保育に繋がっていくと思います。子どもも保護者の方も安心して登園し預けていただけるよう優しく楽しい保育に努めたいと思います。



園庭落ち葉あそび



な～にかな

うさぎ年だよ ぴよん!

仔鹿園

園長 岡本 とも子

久しぶりの行動自粛のない年明けを迎えました。園児たちも職員も元気に顔を揃えて今年が始まりました。コロナの事を忘れて伸び伸びと園児たちが療育を受けられるよう職員一同、頑張ります、とは言えインフルエンザも今年は流行るそうで体力を付ける工夫が必要です。

ところで、雑誌を読んでいたら次の事が書かれていました。「前年の総括をしてから今年目標

をきめる」職員は日々、子どもたちの目標や療育の目標を立て、実践していますが、振り返りが大切。次のステップに進む工夫を怠らないよう努力をしてほしいと感じています。園児も職員も「やらされている」から「〇〇をしたい」に変わるような積極性のある気持ちになるように楽しい毎日にすべく、兎のごとく軽やかなステップでしっかり大地を踏み進めるように頑張ります。

子どもたちの健やかな育ちを願って

いこま乳児院

臨床心理士 山下 純子

コロナ禍、3年目の新年を迎えました。滝寺に参拝して、鐘を突いている姿などお正月らしい写真を撮ったりして、子どもたちと新しい年を迎えました。調理師さんによる豪華なおせち料理は、以前のように全員でいただくことはできませんが、子どもたちは、自分のおせちがテーブルに並ぶのを嬉しそうに待ち、それぞれの料理のいわれを教えてもらいながら、和やかな時間を過ごしました。

乳児院では、愛着形成の意味でも大事な時期を子どもたちは過ごしていますが、子どもによっては、生まれてから大人の顔はマスクで隠された顔しか知りません。施設としては、子どもの安全第一で仕方がないことですが、物を噛む時や、話す時の口の動きを見せて教えてあげることもで

きません。それでも、子どもたちは自分で上手に食べられるようになり、かわいなおしゃべりができるように健やかに育っています。また、色々な行事が中止となることがまだ多く、施設以外での経験が減っています。色々な体験を通しての発達も重要であると考えているため、今年こそは、色々な楽しい行事が行える状況になることを願っています。

人を信用することができ、必要なときに助けを求められる人に成長してくれることを願い、散歩や遊びを一緒に楽しみ、それぞれの子どもの“できた”を共に喜びながら、自己肯定感が育つように支援していきたいと思っています。



日常を取り戻す取組み

新型コロナウイルス感染症が広まり始めてから三年が経過しようとしています。なかなか完全に収束することはありませんが日常を取り戻す取組みが様々行われています。センターでもこれまでは感染対策が主で活動を縮小する傾向にありましたが、今年度からできるだけこれまでに行ってきたことや子どもたちの希望が多かった活動(野外自炊・運動遊び・すいか割り等)を中心に取り組んできました。「曾爾キャンプ」については児童だけではなく保護者の方からも強い希望がありましたので、宿泊を伴いますが三年ぶりに実施しました。参加人数は過去最多の二十八名になりハイキング、レクレーションや団体に分かれてのゲームなどを行いました。活動中は子どもたちの笑顔があふれ、「泊りが楽しかった」「山灯りがきれいだった」「新しい友だちができた」「ハイキングで疲れたけど

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

楽しかった」などの感想が多くありました。完全に以前の活動と同じことはできませんが、センターの特色を活かすとともに新たな活動も含め内容を工夫しながら進めていきたいと考えています。



積み重ねることの大切さ

今年度は、毎日通園の年少クラスの担任としてスタートしました。4月の始めには、できなかったこと、難しかったことも9か月積み重ねていくことで、名前を呼ばれると手を挙げる、お返事をしてくれるようになりました。「ちょうだい」「もう1回」等の要求をそれぞれのステップではありますが、気持ちを保育者に伝えてくれるようになりました。偏食だったお子さんが「食べてみよう」と姿が変わりつつあります。保育室で集団で過ごすことが難しかったお子さんが、今では同じ空間で穏やかに過ごし、時には笑顔で保育に参加してくれるようになっています。そのように子どもたちが



こども支援センターあすなろ

保育士 石川 千裕

スモールステップではありますが、成長していく姿を間近で見て、子どもたちの「できた!!」をみんなで喜びあえる時が毎日嬉しい瞬間です。

同時に「できた!!」に繋げるためには、個々に合った支援や職員同士のコミュニケーションの大切さ、また家庭との連携が支援には欠かせないものであると実感し、日々支援の難しさを感じています。今のクラスで過ごせるのは残り3か月です。引き続き、子どもたちと「楽しい!!」「できた!!」を遊びの中で経験し、色々な体験ができるよう工夫をしながら積み重ねていきたいと思えます。



遊びを通しての仲間の育ち

クラスに元気な子どもたちの声とともに年長児の1年がスタートしました。初めて年長児を受け持ち悩みながらも、お泊り保育や運動会など友だちとも力を合わせて大きな行事を越えていく度にクラスとして団結力ができてきて、子どもたちの持つ力は自分の予想を超えることもあり驚かされました。

しかし、鬼ごっこや中あてなどルールのある遊びでは、やってみたいという気持ちはあるものの負けたくないという気持ちもあり、遠巻きに見ている姿がありました。友だちが楽しんでいる姿を見て近くまで来るのですが、「見ているだけ。」と遊びに入ることができず、でも遊びに入りたい!!という思いもあり、見守る日々が続きました。ある日、今まで見ていた子が「やってみたい!!仲間にいれて」と勇気を出して自分の気持ちを伝えることができ、毎日少しずつ人数が増え、気が付けばクラスの

あすかの保育園

保育士 吉田 綾乃

ほとんどの子が1つの遊びをみんなで一緒に楽しんでいました。

今では子どもたちが自然と集まり、子どもたち同士で遊びを誘い合い楽しんでます。時には負けて悔しくて涙が流れることもありますが、周りの友だちが駆け寄り「悔しいなあ。でも頑張ったよ!また頑張ったらいいねん。こうしたら次勝てるかもよ?」と相手の気持ちに寄り添いアドバイスをしていたり、「前よりもボール投げるのめっちゃや上手になってる!すごいやん!」と認め合ったりという姿もみられるようになってきました。

自分の思いを友だちに伝え笑顔で楽しく遊んでいる姿を見て、友だちに思いを伝える大切さが育って来ていることや仲間意識が深まってきたことにとっても嬉しく感じました。子どもたちが葛藤している時に見守ることの大切さを改めて学ぶことが出来ました。

新しい「いっぽ」を踏み出す一年に!

クリスマスやお正月など、年末年始と楽しい行事が終わり、寒さが本格的になってきました。1月には法人研究発表会もあり、いっぽはこれまでの11年間の取り組みについて発表させていただきます。今年は12年目を歩み始めると同時に、秋ごろに竣工予定の極楽坊あすかこども園の新園舎に移転することが決まっています。

年長児の子ども達は就学が目前に迫ってきており、緊張もしつつ、楽しみにもしている様子が見られ、1年前、2年前の姿を思い浮かべると、大きく成長しています。

年中以下の子も達も年を越して、昨年の姿と比べると、以前よりもできるようになったこと、苦手な事にも果敢に挑戦できるようになったこと等、うれしい変化がたくさん見られます。

年度途中で新しく加わった子ども達も、自分たちのペースで、色々なことを経験し、会う度に様々な様子の変化を見せてくれています。

児童発達支援いっぽ

保育士 奥 克至

日々変化する子ども達と同じく、職員一同、今年も新たな場所での第1歩となるので、更に気持ちを引き締めて、一人ひとりに寄り添ったサービスを提供できるように邁進していきます。



福笑いに挑戦!

子育てをしながら気づけたこと

私には1歳4ヶ月になる息子がいます。息子の保育園入園と同時に“時短勤務”という形で昨年の9月から仕事に復帰しました。“仕事と育児の両立”の大変さを経験する中で、職場での育児の理解や私が働いている間に息子を見てくれる保育園の存在、家族間の協力など、周りの支えやフォローがあってこそ今の生活が成り立っていることを痛感しました。子育てで悩んでいるときは息子の担任の先生や職場の先生方に聞いてもらうだけでもそれが心の余裕につながり、息子への関りや仕事へのモチベーションにも関係してくることに気づきました。

復帰して5ヶ月が経とうとしていますが、支えてもらっているだけではなく今度は私も保育士の立場として気軽に相談され、保護者の方々の悩みや気持ちに寄り添い、少しでも誰かを支えられる

いこま乳児保育園

保育士 長尾 望

ような人になりたいです。そして、毎日仕事を頑張っているお父さんお母さん方の代わりになって、子どもたちが安心し、たくさんの遊びや経験ができる環境・機会を作っていけるようにしていきたいです。



毎日、子どもたちから元気もらってます

With: 一緒に進む一年に!

ここ数年は、人に会うと新型コロナウイルスのことから、健康面に関する話題があたりまえのように出てくるように思います。日々の業務をしていると、はじめは慣れなかったアクリル板越しでの面談・オンラインによる相談・会議・当事者会・100人を超える規模の講演会など、Withコロナがあたりまえになっていることをふと思えます。

今年、でいあーが田原本町の「県障害者総合支援センター」に移転して5年目を迎えました。同時に二次的な相談・支援機関の支援者の支援と困難事案への対応、をメインに相談出来るセンターとして生まれ変わる大事な年です。「発達障害に関する相談は、まずはお住まいの地域で!」をテーマに取り組んできた5年間。徐々に市町村の理解も深まってきつつあります。実際には6つの市町で、福祉課職員も一緒にお話を聞く巡回

奈良県発達障害支援センターでいあー

副主任 中村 匡志

相談を継続的におこない、市町村の行政職員や相談員向け研修もステップアップ出来る形でおこなっています。もっと広い地域で身近な相談が出来るように地域の支援者の皆さまと、ともに考え、ともに悩んでいければと考えています。

これからも、でいあーで後押ししながら県内の発達障害児・者理解が進み、発達障害のある人もない人も、そして支える人も「With」で住みやすい奈良へ駆け上れるような年にしていきたいです。

最後に、でいあーでは新たな年が始まると、4月初めの[世界自閉症啓発デー][発達障害啓発週間]に向けて、啓発イベントの内容を考えるためにバタバタしてきます。これまでの2年はコロナ禍で縮小版での実施だっただけに、今年こそは対面でのイベントなど、中身を練りに練っている最中です。ご期待ください。

これが愛染寮のお正月だ!!～幸せだなあ。

愛染寮

指導員 中嶋 健太

愛染寮の年初めは1月1日の午前0時から滝寺本堂でお参りすることから始まります。正月三が日に限り就寝時間に決まりはなく、子どもも大人も一緒になって流行りのゲームに興じたり、みんなで盛り上がります。

元旦は例年であれば全員が食堂に集まり末松寮長からお年玉、お屠蘇をいただき、食堂さん手作りのおせちを食べるのですが、今年はいったんは食堂に全員集合、お話を聞いてお年玉をいただいてから各ホームに分かれてのおせちとなりました。寮長が各ホームを回って子ども、職員全員にお屠蘇をつぎ、子ども達は「うえ～」と苦い顔をしつつも飲み干していました。今年のお雑煮は白味噌でした。(おすましと毎年順番です。)おせちもお雑煮もとても美味しかったです。その後はあすなろ館で書初め、ビンゴ大会です。書初めでは、今年の抱負を真剣に考えて筆をふるい、その後のビンゴ大会ではご寄付で頂いたおもちゃ等を景品にして大いに盛り上がりました。

2日の昼からは宝山寺に初詣に行き、ご住職のお話を聞く事が愛染寮の伝統です。夕食の

恒例すき焼きパーティーは、おせちと同じように今年は各ホームごとでしたが、美味しいお肉に舌鼓を打ち子どもも大人も大満足～残念ながらあすなろ会員の皆様は別に召し上がっていただきましたが、来年こそはぜひ一緒に!

そして冬休みの楽しみの一つが、森田記念福祉財団様からご招待いただいたUSJです。この日の為に宝山寺初詣の出店でもお年玉を使わず取った子もいます。年始ということもあり人も多かったです。今まで乗ったことのないアトラクションにチャレンジしたり、ポップコーンを食べたり、友人の為に土産を購入したりと存分に楽しんでいました。6日からは新学期の準備で大忙しです。あっという間にもう3学期のはじまりです。

最後となりましたがこのように穏やかにお正月を過ごせること、改めて幸せなんだと感謝しています。子どもと大人と一緒に楽しむことはとても大切です。これからも子どもたちにとって良い思い出が積み上がっていきますように…。かわいい子ウサギ達の跳躍力に乞うご期待!



魔法de大掃除!魔女Mちゃん



宝山寺、初詣

高齢者施設より

15p

- はあとぼーと梅寿荘
- 梅寿荘居宅介護支援センター

17p

- デイセンター寿楽
- 特別養護老人ホームあくなみ苑

16p

- デイセンター憩の家
- デイセンター延寿

18p

- 老人福祉施設梅寿荘
- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター
- 梅寿荘デイセンター

年の初めにあって

法人理念を新人職員へ

1月より非常勤ですが新人職員が入職しました。非常勤の職員にはオリエンテーションを実施しています。久しぶりに説明するにあたり私自身改めて法人の歴史、法人理念・介護理念を見直しました。

戦後まもなく、まだ社会福祉という言葉がない時代に愛染寮が創設され、その後いろいろな施設が誕生しました。法人の理念である「志存興法 念在利生」の意味を考えたとき、ここ数年のコロナ感染の状況の中で今私たちがすべきことは何

はあとぼーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

かと思いを巡らせました。鎌倉時代に活躍された忍性和尚の姿が思い起こされ、恐れることなく率先して困っている人を助ける使命があると考えました。訪問するご利用者が、安心して在宅で生活できるよう支援をしていこうと思います。

歴史ある職場で働いていることに責任と誇りを持ち、職員一同法人のかかげるこの基本理念を再度心に刻み、この1年心新たに仕事に邁進していこうと思います。

あなたらしさを いつまでも

法人の介護理念は「あなたらしさを いつまでも」です。日頃、利用者さんの在宅生活を支えるケアマネージャーとして常に意識をもって支援をしています。しかし、生活に課題を抱えた利用者さんのあなたらしさをどこまで実現できるかと悩むこともあります。

先日、利用者さんの自宅を訪問した際にご本人から「みなさんが毎日来て下さるから安心してここで暮らせます。今の私は何もできないから、していただいたら感謝の気持ちを言葉にして伝えるように心がけています。ありがとうございます。」とおっしゃっていました。元気な頃は沢山の友達がおられ、色々な活動に参加されていたことを思い出しました。きっと昔から感謝の気持ちを伝え

梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

ていたから良い人間関係を築いて来られたのだろうと。慌ただしい生活の中で、分かっているけど中々口に出せずにいることが多い私にとってはとても胸に刺さる言葉でした。

目に見える状況をどう改善したらいいか。昔のように活動的になって貰いたいとの思いもありますが、今日来てくれたヘルパーさんに「ありがとうございました」を伝え、また明日来てくれるヘルパーさんを楽しみに待つ、それがこの方の「あなたらしさ」なのだろうか。利用者一人ひとりの人生感や拘りが強みであり「あなたらしさ」なのだろうか。日頃の会話や行動から思いを感じ取れる支援者でありたいと思っています。

私が考える認知症介護の基礎

ご家族が抱えるほどの大変な思いをしているわけではありませんが、長年、認知症介護のお仕事をさせていただいていても、ご利用者やご家族に満足していただけたのか、また私自身も「これでよかった」と思えた事はなかなかありません。それを前向きに考える為には、以前、研修で勉強させていただいた「9大原則1原則(杉山孝博先生)」の考えを基礎としています。その中での法則については、直接お世話されているご家族など、信頼の厚い人の前でほど、強く症状が現れたり、何度も同じことを言われるのは、短期記憶を失われているためなのですが、本人にとっては「(初めて言ったのに)なんでちゃんと聞こうとしてくれないんだろう?」などの9つの法則があります。大切な

デイセンター憩の家

生活相談員 友國 和之

のは、1つの大きな原則があり「認知症になった人が築いている世界を理解し、大切にしましょう」と言うことです。以前に法人内でこの研修会をさせていただいたときに、研修が終わった後、センター長が「これは認知症の人にはだけでなく、私たちの人と人とのコミュニケーションにも大切ですね」と言って下さった事がわたし自身にもこの法則と原則をよく考えるきっかけとなりました。

認知症介護の基本とは、言葉をしっかりとお聴きした上で、言葉だけでなく、表情なども観察し、ご利用者に向き合っていきたいです。これを原点にご本人の気持ちや、やりたいことを引き出すお手伝いができるようになりたいと考えます。

チーム延寿・総力戦

今年度は、延寿にも新型コロナウイルスの猛威が振るい、夏の第7波と冬の第8波で影響を受けました。日頃より感染対策を行ってきたつもりでしたが、どこかの隙間について忍び寄ってきたように思われます。その間、利用者様・家族様、他事業所の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。また、感染症対策物資の提供や、応援のお言葉や労いのお言葉を下さった皆様もありがとうございました。職員一同励みとなり、乗り切る事が出来ました。

感染拡大した際は、特養スタッフの踏ん張り、看護師の感染対策指導や、デイ・訪問入浴スタッフの特養への応援、他にもケアマネージャーがショートステイグループに入ったり、事務員がデイの配膳を行ったり、施設長・相談員・ケアハウス職員が感染対策後のゴミ収集を行ったり、関係各所への連絡をしたり、管理栄養士は食事の調整・栄養補助食品の用意、機能訓練士も現場に入り、ヘルパーはショートステイ受け入れが出来ない際の、在宅の利用者様の自宅への派遣等、全部署が協力体制をとり、チーム延寿として、総力戦で何とか乗り越えてきました。同じ館内

デイセンター延寿

リーダー 矢野 健太郎

にいても日頃一緒に働く事のないメンバーが集まって仕事を行い、他部署からの視点が入る事で、双方にとっても、刺激となりました。

新年を迎え、年末に作成した延寿の伝統・手作り門松が、利用者様をお出迎えしております。

皆さん大変喜ばれており、この笑顔や喜びがあれば、職員は益々頑張る事が出来そうです。兎年の今年、気持ちを新たに、しっかりと今年度の振り返りを行い、来年度飛躍の年となるよう、準備を進めていきたいと思っております。



延寿門松

1年の振り返りと抱負

毎年12月に清水寺で発表される“今年の漢字”ですが、昨年は「戦」という漢字が発表されて1年を締めくくりました。年初めからのロシアによるウクライナへの侵攻によって、戦争をイメージしてしまう漢字にはなってしまいましたが、北京オリンピックでの日本人選手の活躍や、サッカーワールドカップの日本代表によるブラボーな活躍等、たくさんの感動をもらった戦いもあったと思います。さて、テイセンター寿楽の昨年を改めて振り返ると、新型コロナウイルスとの戦いに終始した1年間でありました。度重なる事業の休止や縮小により、ご利用者やご家族へは多大なご迷惑とご心配をおかけしましたが、その都度ご理解とご協力を得ながら運営が出来た事にとっても感謝をしています。

昨今の報道を見ると、新型コロナウイルスについてのインタビューなどで「コロナ明け」といった言葉を良く聞くようになり、行動制限も解除されて、新型コロナウイルス流行前の日常生活

テイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

を取り戻したかの様な印象を受けますが、医療や福祉従事者にとってはまだまだ先の見えない戦いが続いています。今年は卯年ですが「うさぎの昼寝」になる事がない様に油断する事なく感染予防対策を講じ、それでいて行事や日々の活動を大切にしながらご利用者が安心、安全にご利用頂ける施設を目指し、職員一同力を合わせて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



お正月は女性職員が着物を着ておもてなし。大変ご好評でした。

危機に直面して思うこと

『災害は忘れた頃にやってくる』。昨年7月に当苑事務長に就任し、高齢者施設はどうあるべきかということ学ぶ機会を得、改めてこの言葉が持つ深い意味(言霊)を感じました。

新型コロナウイルス感染症に対してこれまで『無敵』を誇っていた当苑においても、残念ながら本年1月、ご利用者1名が陽性者となり、あれよあれよという間に広がりを見せ、クラスターという災害が起こりました。

国内で初めて感染者が確認されてから3年が経過しましたが、その間に当法人でも多くの施設でクラスターが発生しており、とりわけ高齢者施設においては職員も罹患する中であって、ご利用者に寄り添い、心を添えながら介護に当たるとともに、快適な日常生活を提供するという施設の使命を果たしながら、終息に向けて頑張っている姿を見聞してきました。当苑の職員も常に危機感を持って、感染対策の徹底に取り組

特別養護老人ホームあくなみ苑

事務長 中 幸司

んできたところですが、クラスターということには、どこか「対岸の火事」との意識があったことは拭い切れないところです。

当苑では、日頃から職員一人ひとりが、苑や自己の業務に関心を持ち、仕事の効率化を図りながら、業務の危険性を取り除くことで快適で安心して過ごすことができる環境づくりを目指した『カイゼン(改善)』に着手したところです。こうした取組は一朝一夕に成果が出るものではありません。しかし、近い将来、必ずや実を結ぶものであることを信じて疑わないところです。

今後とも、クラスターなどの『災害』をピンチと捉えることなく、チャンスにつなげていくため、日頃から危機に直面したときを想定した備えを万全し、また意識を高く持つことができるようにしていきたいと思っています。そうすれば『忘れた頃にやってくる災害』を乗り越えることができるはずです。

感謝と共に明けた2023年

コロナと共に迎えた梅寿荘の2023年。感染力の強さに驚きながら、耐えた年末年始でした。お正月休みに会えることを楽しみにされていたご家族の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。必死で対応している私たちをあざ笑うように、コロナウイルスはあつという間に全館に侵入してきました。

ご利用者はどんなに不安だったでしょう。どんなにご不自由だったでしょう。

また、仲間の職員が疲弊も重なり次々と感染して少なくなっていく中、疲労困憊しているにも関わらず、慌てず騒がず自分のやるべき事に尽

老人福祉施設 梅寿荘

次長 森本 公子

力してくれている姿を見て感謝の思いと同時に頼もしさを感じながら新しい年を迎えました。

その頼もしさに甘えるのではなく、どんな事があっても事業を継続していくことができるよう、しっかり計画をしていかなければとコロナウイルスに教わることとなりました。

ある方から頂いた言葉です。

「これからはそれを認めて楽しい日常にすることを考えなければなりません」

ほんの少し萎えていた心がふわりと軽くなった瞬間でした。

人と交流できる喜び

新しく年が明けると、今年はどんな方々と出会い交流できるかと思いき期待が膨らみます。1年前の今頃は、まだまだ交流は難しいのかと、少し心配や不安な気持ちでいたように思います。新年1月から担当地域の各所では、サロンや体操教室がスタートし、あずさ交流ホールでもいきいき百歳体操、介護予防教室やカフェなど、参加者が笑顔で交流されています。

今まで当たり前だと思っていた光景を、特別なものに感じ、人と人が交流できる喜びを、あらためて幸せに思うことができる。これが天から頂いたプレゼントなのだと、年のはじめに気持ちが引き締まるそんな思いがします。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子



尺八演奏のボランティアさんに拍手!

どうする梅デイ

「不自由を常と思えば不足なし」2023年の大河ドラマ主人公である徳川家康が遺した名言です。「不自由が当たり前と思えば、不満も感じない」といった内容でしょうか。

4年目となるコロナ禍で、梅寿荘デイセンターにおいても、引き続き、以前は当たり前であったことの多くが制限される状況です。ご利用の皆様にもマスクの着用や、寒さが厳しくなる季節でも室内や送迎車内の換気等にご協力をいただいています。治療薬開発・供給が進み、1日も早くコロナが収束し以前のような制限の無い生活に戻ることを期待するばかりですが、予断の許さない

梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

状況が続いています。もしかしたら、以前の日常生活のように戻らないのではとも思います。

そんな状況の中でも、ご利用の皆様により満足していただくため、また、私たちデイサービスセンターが地域の中で果たすべき役割は何か、徳川家康の「不自由を常と思えば」に習い、現在置かれている状況が当たり前だと考え、「コロナ前はこうだった」という思いではなく、ウィズコロナを前提に、「今の状況で出来ることは何か」「どうすれば提供出来るか」という視点で考え、より良いサービスを実践していきたいと思えます。

極楽坊あすかこども園新園舎建設状況



極楽坊あすかこども園 園長 辻村 泰聡

旧奈良市立飛鳥幼稚園の廃園に伴い、令和3年4月に極楽坊保育園が「幼保連携型認定こども園 極楽坊あすかこども園」へと移行、廃園後の跡地活用について奈良市との協議を重ねた結果、当園が旧飛鳥幼稚園跡地に新園舎を建設し、新たに地域の子育ての拠点となるような施設にしようということになりました。ここでは、新たに移行した保育所と幼稚園の機能を併せ持つ幼保連携型認定こども園のニーズに十分に答えられるよう、さらには別の事業所であった児童発達支援「いっぼ」も併設という形で合流することになり、児童発達支援の機能も併せ持つことで、幅広いニーズに対応することができることや、利便性の向上につながることを期待されます。現在の園の敷地と比べると、約2倍の大変恵まれた広さで、新園舎の設計は大きな夢の広がる楽しい話…とりたいところですが、ここからが苦難の連続でした。ウッドショックに原油高、さらにはロシアのウクライナ侵攻、円安と、建設コストの高騰に歯止めがかからず、大きな施設を建設するにはあまりに厳しい時代になってしまいました。設計の株式会社教育施設研究所の方々と何度も話し合いながら、コストや納期という現実的な制約の中で、最大限に希望を取り入れた設計を行っていただきました。令和4年の4月からは実施設計や確認申請の手続きを進め、8月に施工業者の入札を行いました。最終的に株式会社鴻池組と契約に至り、10月28日地鎮祭、11月1日から着工となりました。令和5年1月現在、地盤改良・基礎工事をスケジュール通り進めていただいています。普段めったに目にする事のない大きな重機が地面を掘削したり、大きなトレーラーが土砂を運んだりする様子を、園の子どもたちは間近で見ることができて大喜びです。前の道路に面した仮囲いには、スケジュールやニュースが表示されるディスプレイが設置されたり、仮囲いが一部透明になっている部分も設けられたりしていますので、登降園の保護者や通りがかった方も、工事の様子を見ることが出来るようになっています。予定では、3月中頃からいよいよ鉄骨が建ち上がってくるようになっており、今はしっかりと地を固める段階で、地味ではありますが最も大切な部分と言ってもいいかもしれません。お近くを通りかかれた際には、工事の様子を是非のぞいていただければ幸いです。

表彰

令和4年度 法人永年勤続表彰

25年

いこま乳児保育園

保育士 龍田 千夏

いこま乳児保育園

保育士 添野 陽子

20年

延寿

主任生活相談員 小河 良

延寿

介護支援専門員 川上 喜代美

延寿

介護副主任 松村 礼子

仔鹿園

事務員 中川 法子

デイセンター憩の家

主任生活相談員 友國 和之

梅寿荘居宅介護支援センター

介護支援専門員 林田 左知子

表彰受章

全国レベル表彰受賞

厚生労働大臣表彰

極楽坊あすかこども園 田中 明美

主幹保育教諭 田中 明美

いこまこども園 上嶋 智子

保育教諭 上嶋 智子

全国社会福祉協議会会長表彰

特別養護老人ホーム梅寿荘 主任介護支援専門員 黒川 美穂

特別養護老人ホーム梅寿荘 介護職 西 駒貴

いこま乳児院 保育士 上田 有紀

全国児童養護施設協議会会長表彰

愛染 寮

家庭支援専門相談員 菅尾 明史

日本保育協会会長表彰

極楽坊あすかこども園 保育教諭 中野 優子

日本知的障害者福祉協会功労賞

児童発達支援センター仔鹿園 調理師 加藤 めぐみ

児童発達支援センター仔鹿園 児童発達支援管理責任者 雄谷 恵美

全国老人福祉施設協議会会長表彰

特別養護老人ホーム梅寿荘 介護職 今中 大介

特別養護老人ホーム梅寿荘 介護職 政西 恵美

特別養護老人ホーム延寿 主任生活相談員 小河 良

居宅介護支援センター延寿 介護支援専門員 川上 喜代美

特別養護老人ホーム延寿 介護副主任 松村 礼子

老人総合福祉施設あくなみ苑 主任生活相談員 小森 康志

老人総合福祉施設あくなみ苑 経理主任 清島 理知

デイセンター憩の家 主任生活相談員 友國 和之

令和4年度 役員会等報告 (R.4.9.1.~R.5.1.31.)

【第3回 理事会】 令和4年9月20日(火) 文書理事会
第1号議案 極楽坊あすかこども園の移転新築工事に関連する案件

【第4回 理事会】 令和4年12月15日(木) 桃李館研修室
第1号議案 令和4年度資金収支予算について補正を行う件
第2号議案 令和4年度事業計画上半期進捗状況の概要を報告する件
第3号議案 施設長人事について承認を求める件
第4号議案 理事長及び副理事長の職務執行状況について報告
第5号議案 高額寄附の受け入れについて報告する件
第6号議案 諸規程の改正について
第7号議案 その他報告事項等

◆編集後記

1月9日は「成人の日」でした。全国で開かれた成人式がいつものようにニュースで流れていましたが成人年齢が18歳に引き下げられて初めてとなる「成人の日」。各地で「二十歳を祝う会」などと名前を変えて開催されているところもありましたね。

私が若かった頃は成人式と言えば1月15日の小正月。そして夜には若草山の山焼きを楽しみにしたものでした。ずっと変わることのないものだと思っていましたが、現在では、成人の日は1月の第2月曜日に、山焼きは1月の第4土曜日となり、山焼きなどは気が付けば終わっていた、なんて年もありました。

そんなことを思い出しながら「昔は良かったなー」なんて年の初めから歳を感じるスタートとなりました。 森本